

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田南小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	『海田南小学校を日本一自慢のできる学校にしよう!』～心の元気広げ隊の活動を通して～		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<p>(児童の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、解決する経験が少ない。 課題に気付いても、解決の方法がわからない。 願いをもっているが、実現させる方法がわからない。 <p>(児童の課題につながっている教員の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が十分ではない。 代表委員会を機能させていない。伝達の場となっている。 	<p>【学校教育目標 = M・K・M】</p> <p>M(学ぶ) …進んで学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題発見・解決力・主体性 <p>K(気づかう) …気づかいをする子</p> <ul style="list-style-type: none"> 協調性・柔軟性 <p>M(認め合う) …認め合う子</p> <ul style="list-style-type: none"> 共感力・アイデンティティー



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

(取組を実施する意図)
 学校生活の充実と向上を図るための諸課題解決に向けて、児童自らが課題を発見し、解決していく主体的な態度の育成。
 (ねらい)
 「心の元気広げ隊」を中心に児童の願いや思いを把握し、それを解決していく方法を考え、実践することができる。

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

【取組の流れ】

1 「心の元気広げ隊」結成について説明 (全校朝会)

- 「心の元気広げ隊」とは海田南小学校を日本一自慢のできる学校にするために働く任意組織。
- みんなの願いや思いを把握しそれを解決する方法を考え実践していく。
- 誰でもメンバーになることができる。

2 全体会議・学年別ブロック会議・テーマ別推進会議 【自己決定の場の提供】

- みんなから出された願いや思いを出し合い、解決方法を考える。



全体会議



ブロック会議

3 考えたことの実践 (一部抜粋)



心の元気 挨拶運動

海田南小学校の挨拶をもっと増やしたいという児童の思いから朝の挨拶運動を実施した。昨年度の「心の元気広げ隊」の挨拶運動が児童の経験として生きていた。

【共感的な人間関係の育成】



なんでも発表会

学年の枠を超えた楽しいイベントを開催したいという児童の願いから、内容自由の発表会を企画した。回数を重ねるごとに出演希望が増え、人気企画となった。

【自己存在感の感受】 【共感的な人間関係の育成】



給食の先生に質問

揚げパンがメニューからなくなったので復活させてほしい。皿に丼物をよそう時はスプーンも付けてほしい等の願いを栄養教諭に伝え、現状になっている理由の説明を受け全校児童に伝えた。

【安全・安心な風土の醸成】

【創意工夫】

- 「心の元気広げ隊」メンバーを1年生から6年生までの全学年から募り、低学年にも主体的な社会参画の意識をもたせた。
- 「心の元気広げ隊」会議を適宜開催し、児童が迷ったときには、テーマに立ち返らせて考えさせた。
- 「心の元気広げ隊」会議は、毎回全メンバーを招集するのではなく、テーマごとにその内容に関心をもつ児童を推進委員として募った。それによって意欲的に話し合いやその後の活動ができた。

【児童の変容】

- 自分も持っている願いや思いは、自分たちの力で解決する(叶える)ことができるという意識が高まった。
- 全校児童を巻き込んだ活動をしたことで、学年を超えて児童どうしがお互いを認め合う場面が多く見られた。

◆ 成果(○)と課題及び今後に向けて(●)

○成果

- 昨年度の取組を継続発展させたことで児童が主体的に学校の課題を見つけ、解決していく場面が徐々に増えてきた。
- 「なんでも発表会」では、主催者、出演者とも、多くの児童から共感され、自己存在感を感受することができた。

●課題

- まだまだ教師主導の場面が多かった。次年度は、さらに教師主導の場面を減らしていきたい。